

第1回 石川県能登地域公共交通協議会

次 第

日時： 令和6年8月27日(火) 13:30～

場所： のとふれあい文化センター 2階 学習室

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 事 等

(1) 石川県能登地域公共交通計画の策定について

資料1

(2) 能登方面特急バスの臨時ダイヤ変更について

資料2

4 意見交換

5 閉 会

第1回 石川県能登地域公共交通協議会 出席者一覧

所属	氏名	備考
公立小松大学 サステナブルシステム科学研究科教授	高山 純一	会長
石川県企画振興部長	高橋 実枝	
七尾市副市長	脇田 明義	
輪島市副市長	中山 由紀夫	
珠洲市副市長	金田 直之	
羽咋市副市長	川口 哲治	
志賀町副町長	庄田 義則	
宝達志水町副町長	松榮 忍	
中能登町参事兼総務課長	横井 正之	
穴水町副町長	宮崎 高裕	(代理) 観光交流 課長 小林 建史
能登町副町長	田代 信夫	(代理) 課長補佐 大倉 一郎
北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	新倉 孝礼	
北陸信越運輸局石川運輸支局長	猿谷 克幸	

所属	氏名	備考
北陸地方整備局金沢河川国道事務所長	五十川 泰史	(代理) 計画課長 水野 力斗
北陸地方整備局能登復興事務所長	杉本 敦	
石川県土木部道路整備課長	小寺 基	
石川県警察本部交通部首席参事官	宮永 裕嗣	
西日本旅客鉄道株式会社 金沢支社地域共生室長	鹿野 剛史	(代理) 交通企画 室長 川上 俊幸
のと鉄道株式会社代表取締役社長	中田 哲也	
北陸鉄道株式会社取締役自動車部長	高橋 航	
能登島交通株式会社代表取締役社長	青山 邦一	
一般社団法人石川県タクシー協会専務理事	広瀬 道弘	
公益財団法人石川県老人クラブ連合会	干場 昌明	欠席
石川県高等学校PTA連合会	吹上 良江	
石川県高等学校PTA連合会	杉木 彩子	(代理) 井田 千絵美
一般社団法人能登半島広域観光協会	多田 邦彦	
輪島商工会議所女性会	澤田 珠代	欠席

※敬称略、順不同

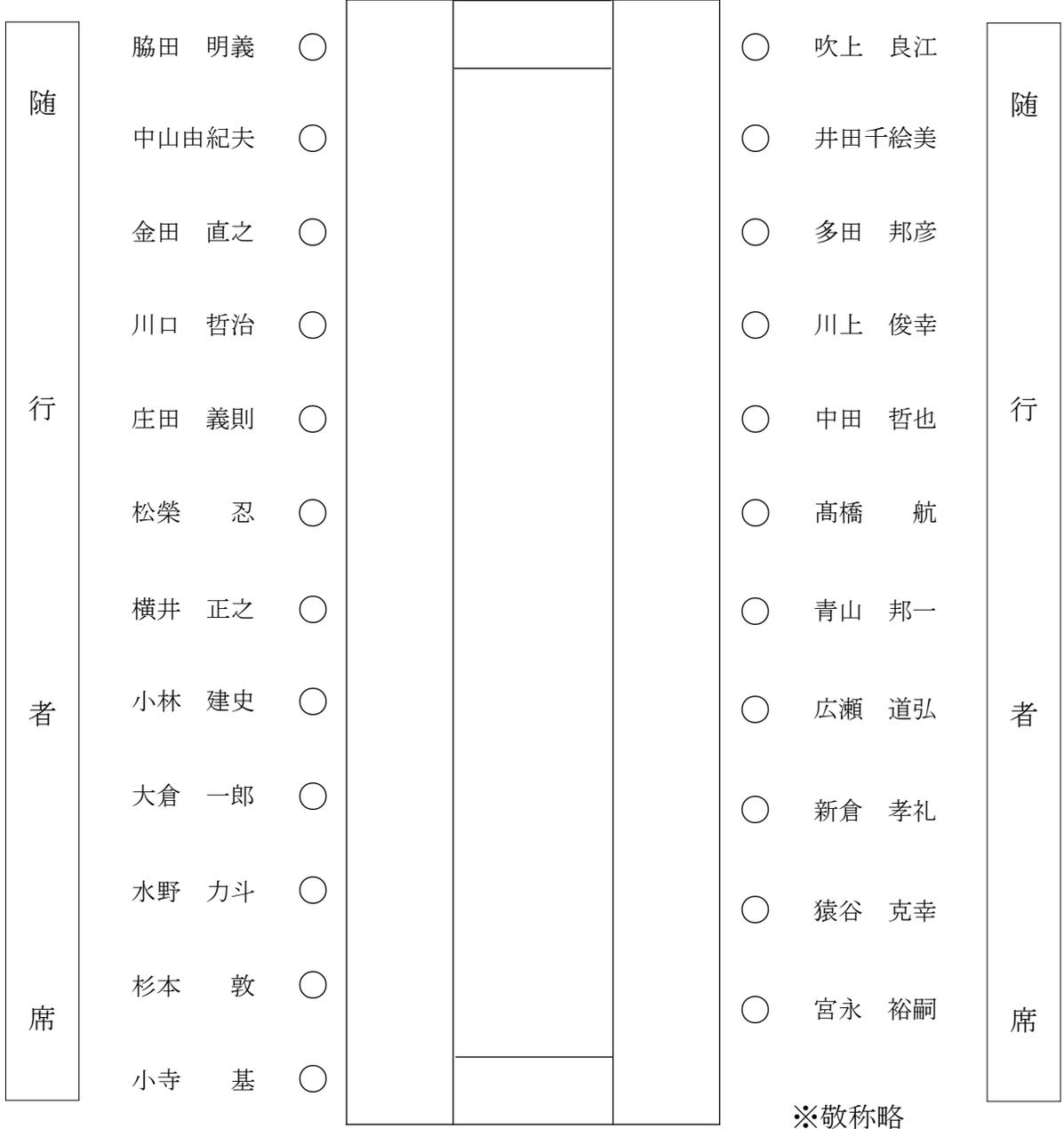
第1回 石川県能登地域公共交通協議会 座席図

日 時：令和6年8月27日(火)13:30～

場 所：のとふれあい文化センター 2階 学習室

高山 純一 会長

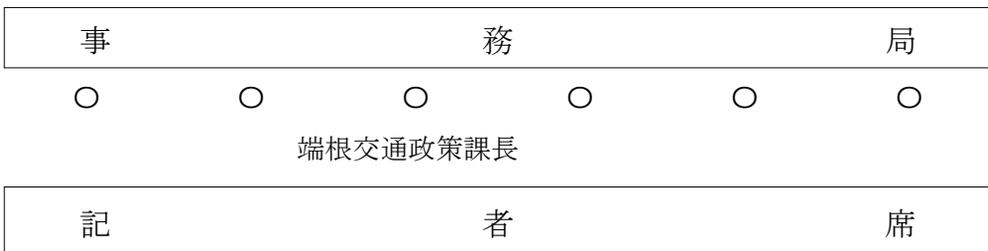
○



※敬称略

○ ○

高橋 実枝 (事務局)三林対策監



石川県能登地域公共交通計画の策定について

令和6年8月27日

第1回 石川県能登地域公共交通協議会

目次

- 1.計画策定の目的・計画の概要
- 2.能登地域の地域公共交通を取り巻く現状
- 3.検討議題
- 4.再構築に向けたロードマップ
- 5.令和6年度 協議会スケジュール
- 6.本日も議論いただきたい事項

1. 計画策定の目的・計画の概要

目的・背景

- 能登地域の地域公共交通は、令和6年能登半島地震以前から、人口減少、新型コロナ等により、**利用者が大きく減少**
- 震災により、**タクシー事業者の休廃業、金沢市内への特急バスや路線バスの減便・迂回**を強いられる等、さらに厳しい状況
- 今後、能登が本格的な復興を果たしていくためには、将来の能登の姿を見据え、**持続可能なものとして再構築**していく必要
- 今般、協議会を設置し、4市5町における**広域的な地域公共交通計画**を策定

<復興プラン抜粋>

(取組7) 利用者目線に立った持続可能な地域公共交通

地域住民の生活の足として、さらに能登の交通結節点であるのと里山空港・のと鉄道からの二次交通としても重要な地域公共交通のあり方について、市町や交通事業者などと連携し、利用者のニーズを丁寧に汲み取りながら、将来の能登の姿を見据えた、地域公共交通のリ・デザイン（再構築）に向けた協議を行います。

<内容>

- 自家用有償旅客運送やAIオンデマンド型交通、自動運転などの導入 など



(写真) 小松市提供

(小松市で運行されている自動運転バス)

-8-

概要

- 計画区域
4市5町（七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋市、志賀町、宝達志水町、中能登町、穴水町、能登町）
- 計画期間
令和7年度～14年度（石川県成長戦略及び復興プラン目標年次）
- 計画の位置づけ
県の上位計画や各市町地域公共交通計画等と整合を図る

石川県能登地域公共交通計画



石川県（上位計画）

- ・石川県成長戦略
- ・石川県創造的復興プラン

各市町

- ・地域公共交通計画
- ・復興プラン

2. 能登地域の地域公共交通を取り巻く現状 (1/2)

JR七尾線

1/15～ 【高松～羽咋間】 運行再開

2/15～ 全線運行再開 (一部減便)

3/16～ 通常ダイヤでの運行再開

→ (普通) 金沢・七尾間 21.5往復/日 (平日)
(特急) 金沢・七尾 (和倉温泉) 間 5 往復/日

のと鉄道

2/15～ 【七尾～能登中島間】 運行再開

4/ 6～ 全線運行再開 (一部減便)

7/20～ 通常ダイヤでの運行再開

→ 七尾・穴水間 17往復/日

特急バス

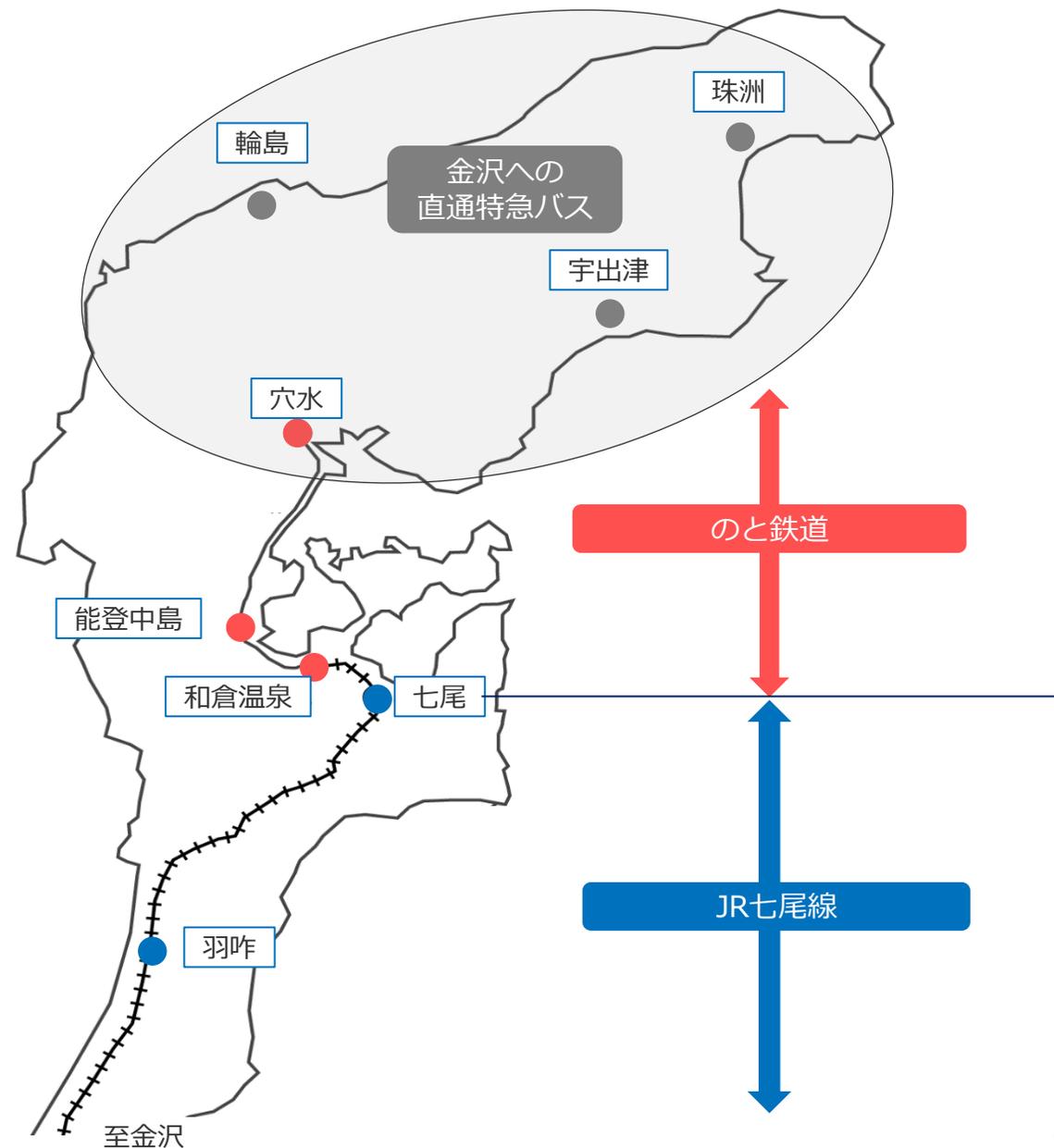
～12/31 輪島：7往復、珠洲3往復、宇出津：1往復

1/25～ (無料)

輪島：2往復、珠洲、宇出津：1往復

3/16～ (臨時ダイヤ・通常運賃)

輪島：4往復、珠洲、宇出津：1往復

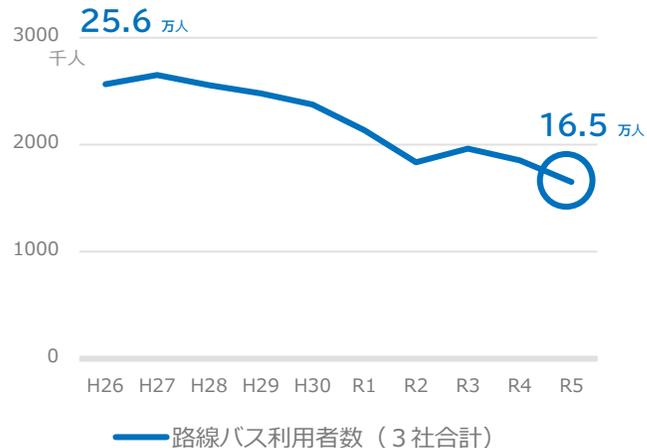


2. 能登地域の地域公共交通を取り巻く現状 (2/2)

需
要
面

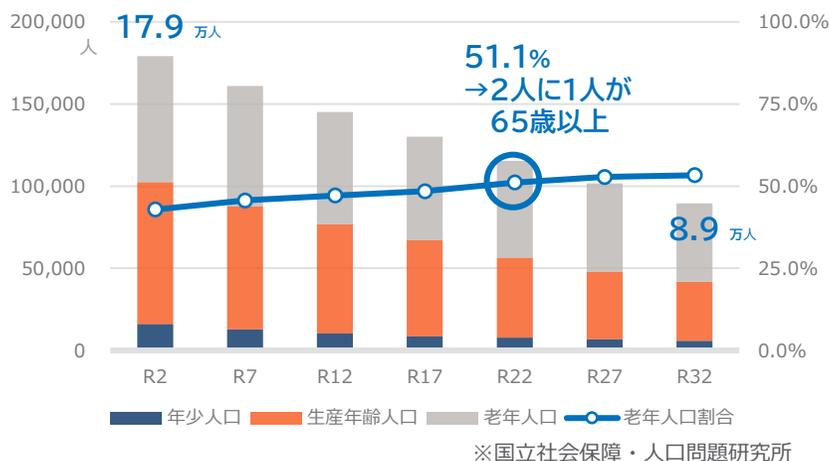
能登地域 路線バス利用者数

“10年間で35%減少”



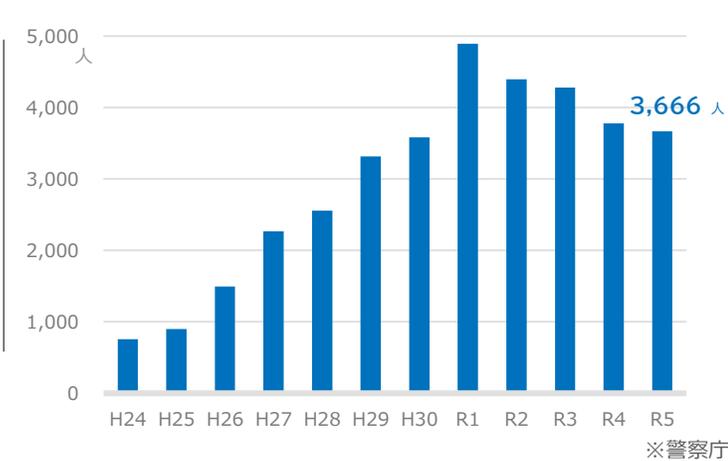
能登地域 (4市5町) の人口推計

“人口減少、高齢化が深刻化”



石川県 免許自主返納件数

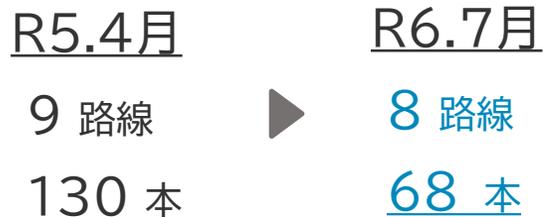
“自主返納の増加”



供
給
面

北鉄奥能登バス 路線バス運行本数

“震災により、運行本数が半減”



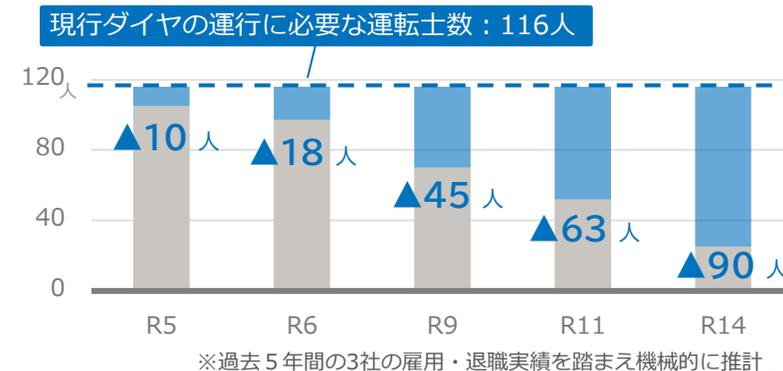
奥能登2市2町タクシー事業者

“震災により、休業や運行台数減”



能登地域 路線バス運転士数

“既に必要数に対して不足しており、今後深刻化”



※過去5年間の3社の雇用・退職実績を踏まえ機械的に推計

3. 検討議題 (1/3)

主な検討議題

1. 応急的に対応すべき課題

- ・金沢～奥能登地域をつなぐ**特急バス**は被災前と比べて減便
- ・J R 七尾線、のと鉄道について、通常ダイヤに復旧しているものの、**のと鉄道**は、震災の影響もあり、一層厳しい経営状況
- ・**仮設住宅から各市街地への移動**について、既存交通手段（各市町運営のコミュニティバスや乗合タクシー）により、対応しているものの、**応急的な措置であり、継続的な運行が課題**

2. 復興に合わせて対応すべき課題

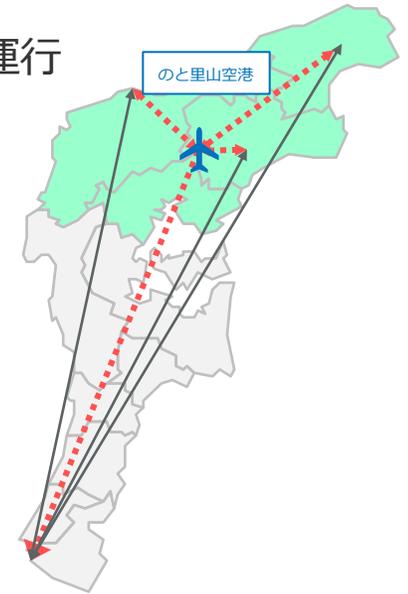
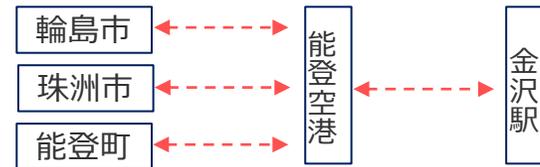
- ・**運転士不足**により、路線バスや各市町ごとに運営しているコミュニティバスの維持が困難
- ・利用者減にともない、**収益面**からも路線維持が困難
- ・タクシー事業者・台数の減少により、**タクシー手配**が困難

従来の輸送資源を最大限活用しつつ、**新たな交通手段の活用を含めた能登地域全体の公共交通再構築に向けた検討が必要**

現状：各奥能登市町と金沢駅の直行便を運行



▶ 路線集約により、
双方向からの往来回数を維持



現状：各市町ごとにコミュニティバス等を運営

▶ 市町を跨ぐオンデマンド交通等の活用を含め検討



現状：タクシー事業者・台数の減少

▶ 公共ライドシェア等の活用を含め検討

3. 検討議題 (2/3)

のと鉄道について

現状・課題

- 震災後、約3か月ぶりに全線で運行を再開した本年4月から6月までの利用者数は、R5同月比▲16.2%と大きく減少
- 今後も、**従来からの少子化・過疎化の進展**に加え、車両等の**所有設備の老朽化**が進み、厳しい経営状況が見込まれる
- 将来にわたって、地域住民の生活交通、観光の二次交通として役割を果たせるよう、**のと鉄道の持続可能性を高める必要**

今後の方向性

- 老朽設備の更新や、利便性向上による更なる利用促進等により、**のと鉄道の持続可能性の確保を図っていくための方策を検討**

	1. 自治体による支援【県、沿線市町、基金組合】	2. 利便性向上策、利用促進策
現状	のと鉄道が行う安全対策などへの財政支援 ・老朽施設の更新（レール・枕木・車両等） ・車両修繕など安全対策費 ・鉄道基盤維持費（線路・電路修繕費等）など	・通勤・通学定期運賃の一部助成【利用促進協議会による支援】 ・企画列車、ラッピング列車の運行 ・観光列車「のと里山里海号」の運行 など
今後	安定運行の確保及び持続性を高めるための方策を検討	

3. 検討議題 (3/3)

運転士不足等課題解決に向けた取り組み事例

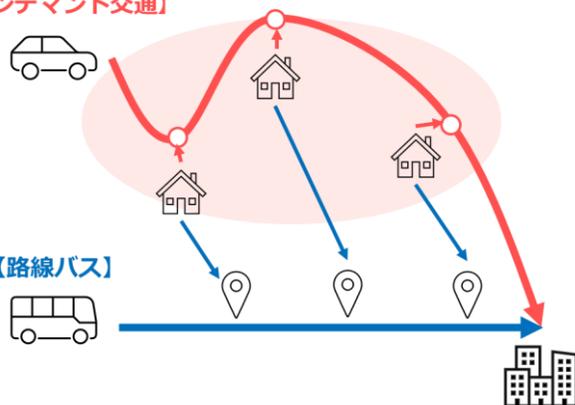
オンデマンド交通

路線バスとタクシーの中間的性質の交通形態

- 配車予約（電話またはアプリ）が必要
- 任意に乗降ポイントを設定できるため、地域内移動を面的にカバー
- 個々の移動ニーズに対応しつつ、低コストで一定数の人が同時に移動可能

<イメージ>

【オンデマンド交通】

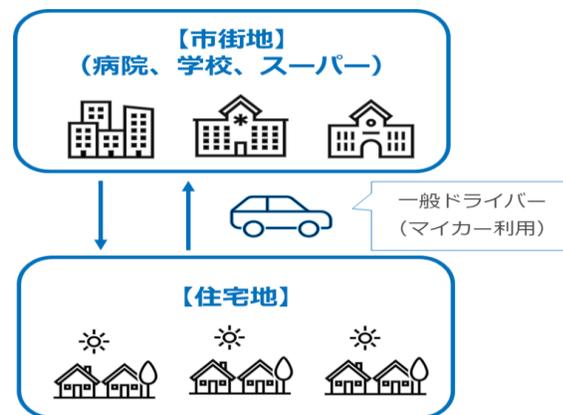


公共ライドシェア

バス、タクシー等の公共交通機関によって、十分な輸送手段を確保することが困難な場合、一般ドライバーや自家用車を活用し、有償の旅客運送が可能

- 運送主体：市町村、NPO法人など
- 使用車両：自家用車（白ナンバー）
- ドライバー：第1種運転免許保有者で大臣認定講習の受講等をしたもの

<イメージ>



自動運転バス

全国的に運転士不足が深刻化する中で、国は、R9年度に全国100か所以上で無人自動運転移動サービスの実現を目指している

福井県 永平寺町

国内初のレベル4自動運転運行（R5～）
交通量の少ない限定地域（廃線跡）での
小型カートの運転 12 km/h 以下

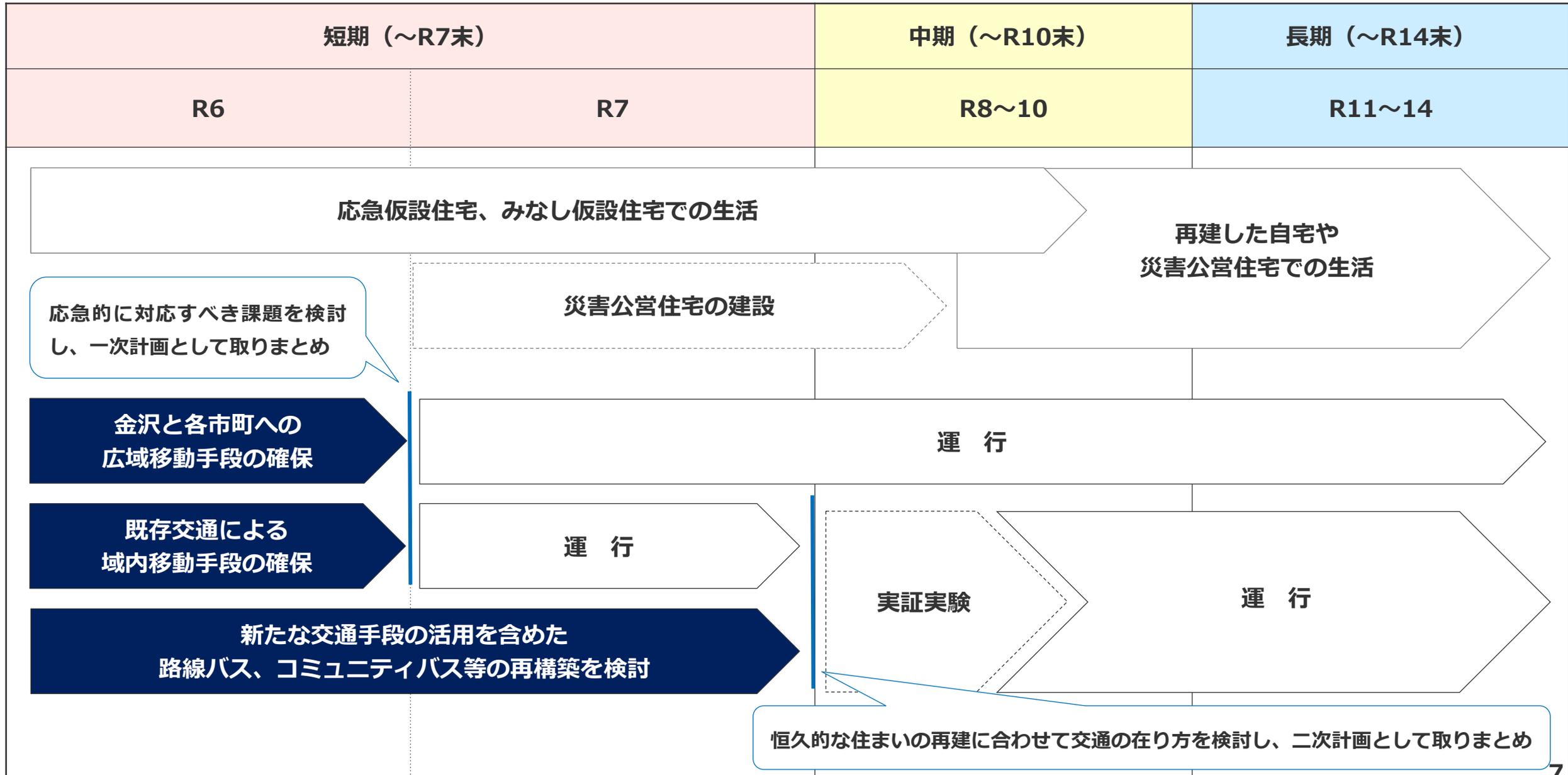


石川県 小松市

R7年度以降レベル4運行を目指し、
現在は、レベル2で運行中（R6～）
混在空間（小松駅～小松空港間の公道）での
バスの運転 40 km/h 以下



4. 再構築に向けたロードマップ



5. 令和6年度 協議会スケジュール

本日 第1回 石川県能登地域公共交通協議会

- ① 県から現状の課題説明
- ② 意見交換



・市町、交通事業者と協議・調整

11～12月 第2回 石川県能登地域公共交通協議会

- ① 第一次能登地域公共交通計画事務局（案）提示
- ② 第二次計画策定に向けた検討

1～3月 第3回 石川県能登地域公共交通協議会

- ・ 第一次能登地域公共交通計画策定

6. 本日まで議論いただきたい事項

- 各市町と金沢間の移動にかかるニーズや公共交通に関する課題
- 隣接市町間など能登地域内の移動にかかるニーズや公共交通に関する課題
- 既存公共交通を補完するための新たな交通手段にかかるニーズや課題